

主題：ブッシュ政権の環境政策～3年後の評価

報告者：ロバート・H・ネルソン教授（メリーランド大学政治大学院）

コメンテーター：城山英明助教授（東京大学・本COE事業推進担当者）

司会：久保文明教授（東京大学・本COE事業推進担当者）

講演要旨

中絶や同性結婚など価値観を巡る新しい政治が共和党と民主党を分断し始めている。しかし、環境問題も同様に価値観に関わる問題である。ジョセフ・サックスが論じたように、環境保護主義者は「世俗の預言者」であり、善悪二元論的なものの見方をする。それ故に、レトリックと現実の差に注意すべきである。彼らはブッシュ現政権の政策を石油産業などと関連づけて激しく糾弾するが、ブッシュ政権の政策は実際には自由市場経済を志向するシンクタンクからも低くしか評価されておらず、事実、環境政策において政権交代に伴った大きな変化は起きていない。環境問題はワシントンの政策「専門家」ではなく、「ポピュリスト」によって支配されている。彼らは、環境規制の限界を認識した専門家が、市場原理を導入しようとして提案したブッシュ政権のクリア・スカイ・イニシアティブにも満足しなかった。八〇年から始まった環境問題を巡る断絶は拡大し、環境保護は「宗教的なシンボル」となっている。根本的な価値観の衝突のなかで、妥協は不可能な状況である。（佐橋亮）